

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座 准教授
氏名 Name	小森 淳子
専門分野 Academic Field	アフリカ言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究
<p>本年度から科研費による基盤研究(C)「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究」(課題番号 16K02672、研究代表 小森淳子)を始めた。ニジェール・コンゴ語族はサハラ以南アフリカの広大な領域に分布する大語族であるが、この語族を特徴づけるのは、基礎語彙と名詞クラスの体系、そして動詞の派生とそれに関する統語構造である。本研究では、特に動詞構造に焦点をあて、その形態と統語構造の特徴を明らかにしようとする。</p> <p>本年は特に受動態を取り上げ、その形態と統語構造について考察した。対象とする言語はバントゥ諸語、ヨルバ語(以上ベヌエ・コンゴ語派)、バンバラ語(マンデ語派)である。バントゥ諸語は受動接辞でもって受動形を作るが、ヨルバ語は動詞に受動形がなく、不定人称の主語を用いて受動文に相当するものを表す。バンバラ語の動詞にも受動形はないが、動詞の形態はそのまま「対象」を主語にすることによって、受動文に相当するものを表すことができる。バンバラ語の動詞はいわゆる「自他同形動詞」が基本である。同じく動詞が変化しないヨルバ語では、状態の自然な変化が見られる場合(たとえば「乾く」「割れる」)のみ「自他同形」となるが、バンバラ語ではあらゆる動詞(たとえば「殺す」「食べる」)が「自他同形」であり、原形のまま「対象」が主語となり得る。動詞の形態と受動文との関連から動詞の態に関する類型的なスケールを想定し考察した。</p> <p>またバンバラ語の文法について総合的に分析し、まとめる作業を開始している。本年は音韻の分野に焦点をあて、バンバラ語のアクセントについての概要を以下の論考にまとめた。</p> <p>小森淳子(2017)「バンバラ語のアクセントについて」、『スワヒリ&アフリカ研究』28号、pp.91-109、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語専攻。</p>	